

ものづくりの人材育成

九工大大学院の演習コース 企業技術者が講師

AT設計など15テーマ 開設3年好評



「需要創発コース」の一環で、自動車のトランスミッション解体に挑戦する院生たち

企業の技術者が講師を務める九州工業大学大学院情報工学府(飯塚市)の院生向け演習「需要創発コース」が8月で開設から3年目を迎えた。社会に出て役立つ問題解決能力を養うのが目的で、企業側からも「ものづくりの現場を支える人材の育成につながる」などと好評だ。

同コースは企業などが設けた演習テーマの中から院生が選択して受講する仕組み。1年半の講義や実習を通して、現場が実際に抱える課題の改善などを目指す。本年度は情報通信技術

生活・経済



を活用した病院の待ち時間解消(飯塚病院)▽エアタオルの設計や製造(TOTの演習テーマには11人の院生が参加しており「斬新なO)▽全方位移動型車いすの実用化に向けた改良(三ツ和金属)など15のテーマが設けられている。

世界シェアトップの自動車用オートマチックトランスミッション(AT)メーカーの「アイシン・エイ・ダブリュ」(愛知県)は1年を通して7、8人の技術者を派遣。車に搭載するATの設計を目標にした同社の演習テーマには11人の院生が参加しており「斬新なアイデアに私たちも刺激を受けている」と同社技術本部の主任研究員、山口健さん(48)。

講義でATの解体や組み立てを行った大学院1年の田中耕平さん(22)は「普通は入社後しかできない体験だと聞いた。自分たち

で設計したATで車を走らせるのが楽しみ」と話していた。(中野慧)